

おい図書館

No.200

発行
代表
青木 和子
松本市牧の原 1-10-4
TEL 047-311-0886

こんな素敵なお人たちがいた！

神惇子

5月19日(土)の「おい図書館」定例会で、子育て支援ボランティアとして市内で活動している方達のお話を聞かせていただいた。

始めに、NPO法人「松ア子育てサポートハーモニ」副理事長石川静枝さん。

法人としては「おやこde広場」3ヶ所も運営しているが、「野菊野子ども館」を中心に話をしてくださった。

「野菊野子ども館」は、松江市では数少ない「児童館」に位置付

けられている。毎週月曜日と第1土曜日を除く毎日開館しており、対象が0歳から18歳まで(中高生)受け入れている貴重な存在だ。

第1土曜日は、21世紀の森と広場内の「森の工芸館」で活動している。乳幼児は保護者と一緒に参加、小学生までは17時まで、中高生は18時まで居られる。名前と緊急連絡先の電話番号を記入して、好きなように過ごして良い。遊び道具はいろいろ用意されているが、何もせずにごろごろしていても良い。様々なイベントも行われる。ボランティアで運営されているが、松江市認定のコーディネーターが居

て、子育ての相談にも応じている。もう一人は、NPO法人「子育てひろばほわほわ」理事駒口文さん。紙数にある「向新橋青年館」で地域が子育てを支援する場を提供している。スタッフはボランティア。会員制の組織だが、「屋根のある公園」のような親子の居場所として運営されている。利用者は一回300円の利用料を負担する。また生後6ヶ月未満就学児の「一時預かり」と専門家を招いての「子育て相談室」(いずれも有料)も実施している。市の「子育て養成講座」終了者1人が2005年に準備会をつくり、開催場所を求めて、先進事例を見学したりしているうちに「向新橋青年館」をお借りすることが出来たということだった。

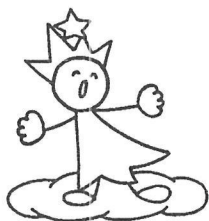
お二人の多岐にわたる活動を全部理解したとは思えないが、印象深いことは、行政の子育て政策の

除を積極的にカバーしているといふこと。無償での頑張りに頭が下がる思いだった。

「子育て養成講座」終了者が仲間づくりの核であったことは、社会教育計画にあるように、講座受講者の社会への還元といえる。子育ての経験を生かし、社会的貢献をしたいというニーズにも応えるものになっていと思う。しかし、経験者とはいえ、専門職ではないスタッフがボランティア活動として行う子育て支援は、子どもの安全や健全な成長を促す面で不安を覚える。そうした不安に対して、松戸市は一定の講習受講者に独自の「子育てコーディネーター」認定制度を設けていて、現在23ヶ所の「子育て支援センター」と「おやこde広場」に配置しているという。石川さんも駒口さんも独自にスタッフの研修を熱心に進めているとのことだったが、民間の側の

善意と努力に寄りかかっていて良いのか、という疑問は残る。松戸市の子育て支援制度は、子ども部を中心に多様なニーズに応えようと、働きたい女性市民の力を活用している。逆の言い方をすれば、意欲のある市民が行政を支えているともいえる。孤立した家族、親子の不幸な事件が報じられる中、「おやこde広場」「子育て支援センター」は乳幼児期の親子を支える貴重な制度だと思う。

しかし、児童館が少ないという大きな問題が残っている。学齢期の子どもたちの居場所があまりに不十分で、塾に逃げ込まざるを得ない状況ではないだろうか。



公共図書館と学校図書館の

連携に関する研修会

「情報リテラシーを育てるために」

武笠紀子

公共図書館と学校図書館の連携を知りたかったので、8月3日(金)、松戸市立図書館主催の研修会に参加しました。講師は梅澤貴典さん(中央大学職員、都留文化大学非常勤講師)。「広報まっど」でも募集がありました。ところが、いとう対象者は学校図書館司書や図書館担当の先生方が中心だったようです。

松戸市の図書館は、時代遅れで市民の要望に応えられないという大きな問題を抱えています。新しく「図書館整備計画」が策定されましたが、建設には時間がかかりそうです。図書館の改革は建物建設だけではなく、学校図書館と公共図書館との連携について、

進められることがあればと思って、この研修会に参加しました。

講師のお話は面白かったのですが、ITを使った健康の功罪等、情報リテラシーについての話に時間をとられ、残念ながら肝心の図書館連携の部分は聞けませんでした。アンケートには、続きのお話を聞きたいと書きましたが、講師の梅澤さんに直接質問を出しても良いとのことですので、以下の質問を送りたいと思います。

《質問》

ご存知のように、松戸市には老朽化した図書館本館と小規模の19分館（館長がいないので、正しくは分室です。）があります。

市立の学校は、小学校45校、中学校20校、高校1校、他に県立高校4校、私立高校2校、大学が4校（千葉大学園芸学部、聖徳大学流通経済大学、日本大学松戸歯学

部）があります。このうち流通経済大学は、図書館を一部市民の利用に開放しています。松戸市が川井市長時代の2000年に国有地購入を譲った聖徳大学は「当該地に新図書館を開館し市民利用に開放する」と、当時市から説明があったのですが、いまだに気配もありません。

こうした学校図書室や学校図書館と松戸市の公共図書館（市内には千葉県立西部図書館もあります。）が連携することは、学校の児童・生徒・学生にも一般市民にも利益になると思うのですが、これは参考になると思われる自治体の事例があれば教えて頂きたいと思います。松戸市で長年図書館活動をしている「おいしい図書館」というグループに所属していますので、会に提案して視察に行きたいと思っています。

尚、何回も視察していますので、浦安市立図書館と浦安市内の明治大学の連携は承知しています。

図書館の出版です！

情報リテラシーを育てるために
を受講して

市議会議員 山中啓之

「最初に結論を言います。『いつ・どこで・誰が言っている事なのか』を知る事がリテラシーです」

——この本質から切り出したのは、講師の梅澤貴典氏。中央大学職員として図書館に携わる傍ら、都留文化大学非常勤講師としての顔も持つ。又、教育研究支援や情報リテラシー教育にも明るく、研究者としても実践者としても活躍されているようだ。しかし、そんな肩書を忘れるくらい、面白い人であった。そう思った一端を記したい。

(4)

生きる力の育成が求められてい
る。昨今では、①知識・技能②思考
力・判断力・表現力③主体性・多
様性・協働性が重視されるように
なった。私見だが、①の習得は近
年のICTによって比較的容易にな
った。そしてこの事が、個人のア
イデンティティーと言うべき価値
基準や哲学を問う②へと発展し、
更に、社会における③として発揮
される事が望まれる時代になっ
たのだらう。単純な知識の暗記以
上に、独自の知恵や行動が問われ
ている。

レジュメを見る限り、本来は以
上の事を「高大接続改革」を例に
現在の高等学校教育や大学入試・
教育等の課題を踏まえて（役所の
職員が好まそうな）順序良く解説
する跳えになつていたのだが、梅
澤氏は筋書に囚われない。参加
者の聞きたい事の真ん中を深く

濃く扱う事を重視する。

例えば「スタジオジブリの映
画1千と千尋の神隠し」のモデ
ルとなった場所？」と参加者
に訊きながら、リテラシーとは
何かを教えてくれる。多くは台
湾の九份と答えるが、きちんと
調べると、どこにも確たる証拠
は無い。冒頭のセリフが蘇る。
公式サイトを調べると実は「江
戸東京たてもの園」が見つかつ
た。念押しで宮崎駿監督の実声
インタビューまで探し出す徹底
ぶりには司書根性を感じた。

情報が氾濫する世の中で、正
しい事実を知る力は、より求め
られる。大勢が言っているから
、本当とは限らない。こゝは
議会にいらると感じる事が多い
が、ややもすると忘れてしまひ
周囲に流されてしまう事はない
だらうか。場の雰囲気は流され

ず、冷静に事実を見つめることが
リテラシーの本質だ。

「プロフェッショナルとアマチ
ユアの違いは、言葉に責任を拂っ
かどうかだ」という言葉からは、
個々の賛否態度の公開すらしてい
ない市議会の一員として改めて責
任を感じた。責任を取らない言葉
に翻弄されると、当然ながら社会
は良い方向には進まない。記録は
重要だ。

気付けばいつの間にか、梅澤
氏の話はOPACやら国立国会図書館の
レファレンス共同データベースや
らの活用法にまで触れていた。
高校生の小論文から研究者の
論文までその他あらゆるものに對
する知的好奇心の追求において、
一通りの準備は揃った。あとは、
我々が実践するのみだ。

